

中越地震の中長期的影響に関する研究

中村 和利

1. はじめに

新潟県中越大震災は、2004年（平成16年）10月23日17時56分に新潟県中越地方を震源に発生し、マグニチュード6.8、最大震度は北魚沼郡川口町で震度7を記録した。被害は、高齢者や子供を中心に死亡者は60名を超え、負傷者は4,800名以上に上り、避難した住民は最大で約10万3千人を数えた。家屋の全半壊はおよそ1万6千棟に上り、発災初期から県の主導のもと、多くの精神医療チームが派遣され、精神保健活動も被災地で積極的に展開された。今回は、新潟県中越大震災の激甚災害地域における住民の心身の変化を早期に発見し、健康な生活が維持できるよう、全住民の心身の健康状況調査訪問を実施した。

2. 方法

2.1 対象者

対象者は新潟県川口町の全住民とした。対象者人数は3346名、調査実施者数は2924名であった。

2.2 調査時期

地震から3年後の平成19年6月～平成20年1月であった。

2.3 調査方法

保健師による面接調査及び聞き取り調査を実施した。調査項目は、個人の属性、被災状況、受診状況、自覚的健康感、飲酒状況、地域との交流などであった。

3. 結果

地域交流が疎遠になることで心的障害のリスクが高まることが示唆された。

4. まとめ

今後も中越地震の地域住民に与える中長期的な影響を明らかにする取り組みを行っていく予定である。

参考文献

Oyama M, Nakamura K, Suda Y, Someya T: Social network disruption as a major factor associated with psychological distress 3 years after the 2004 Niigata-Chuetsu earthquake in Japan. *Environ Health Prev Med* 17(2): 118-123, 2012.